

## 第3章

### 基本理念と目標

## 第3章 基本理念と目標

### 1. 現状を踏まえた課題

前章で述べたように堺市には、南部丘陵・農地・古墳・社寺林・公園・海・川・ため池といったさまざまな自然と生態系があります。

それぞれの自然環境には、その生態系に応じた特徴的な生き物が生息しています。例えば陸域では、南部丘陵におよそ600haの樹林地が残っており、そこには、オオタカ、ニホンノウサギ、ゲンジボタルやカスミサンショウウオなどが生息しています。そのほか、農地はイネや野菜を栽培するために一年のうちにさまざまな形態に変化するため、時期によりコサギやムクドリ、モンシロチョウなど

さまざまな生き物がやってきます。仁徳天皇陵古墳、履中天皇陵古墳、反正天皇陵古墳などがある百舌鳥古墳群や、クスノキ、エノキなどの樹木やコジイ、アラカシ、カナメモチなどを中心とした樹林地が残る社寺林も、まとまった緑が少ない市街地においては貴重な緑であり、生き物にとって貴重なすみかとなっています。また、市内にある約1,100か所のさまざまな規模の公園もアオスジアゲハやナミアゲハといった昆虫やムクドリやモズといった鳥たちにとって重要な生息地となっています。



コサギ



ナミアゲハ



モズ (オス)

一方、水域にも海域にはクロダイ(チヌ)をはじめとしたたくさんの生き物が、自然に囲まれたため池には、水生植物や水生昆虫、鳥たちが、河川にはヌマムツ、モツゴ、コイなどさまざまな生き物が生息しています。

このようにさまざまな生態系があり、多様な生き物が生息している堺市ですが、その中でも特に生物多様性を維持する上で重要な場所を「生物多様性ホットスポット」として位置づけます。

本市の南部丘陵は、里地里山といわれる農地、雑木林、ため池といった豊かな生態系を有する場所であり、例えば、森の部分にはオオタカ、シリブカガシなどが、水系にはカワバタモロコなどといった堺市レッドリストに掲載されている動植物種の多くが確認されており、ここでしか見られない生き物も数多くいることから生物多様性ホットスポットと位置づけることができます。



南部丘陵 (南区)

また、本市の臨海部は貴重な渡り鳥の中継地となっていて、チュウヒやツバメチドリは堺7-3区の埋め立て地で繁殖が確認されており、裸地や草原、ヨシ原が鳥の繁殖地として貴重な場所となっています。近年では、堺2区において人工干潟の造成など、生物多様性に寄与する生息環境の整備が行われており、その他の海岸部でも市内で唯一海浜性の植物（ツルナ、ハマヒルガオ）が見られることから、臨海部も生物多様性ホットスポットとして位置づけられます。

そのほか、古墳、社寺林、公園といった都市における緑地も、さまざまな生物の生息地及び一時的な生息場所になっており、緑の少ない市街地にお

いて重要な生態系であることから、生物多様性ホットスポットと位置づけることができます。

このようにさまざまな生態系があり特徴的な生き物が生息する本市においても、近年外来生物の増加による生態系の悪化が問題となっています。市内では多くの外来生物が確認されており、その中でも、アライグマ、オオクチバス（ブラックバス）やブルーギルなどが侵略的外来生物として挙げられます。これらは在来種を捕食したり、生息場所を奪ったり、交雑して遺伝的なかく乱をもたらすなどの影響を及ぼし生態系の悪化をもたらします。生態系は複雑なバランスのもと成り立っているため、一度変化してしまうと元の姿に戻すことは極めて困難です。



堺2区（堺区）



チュウヒ：Aランク



カワバタモロコ：Aランク



カスミサンショウウオ：Aランク

以上のことから、今後の堺市の生物多様性を考える際、本市の生物多様性を維持する上で重要な生物多様性ホットスポットである南部丘陵、臨海部などと都市における緑地などその周辺地域や都市部に残された生態系をつないでいく生態系ネットワークの形成と、在来生物を脅かす外来生物の排除が重要です。行政のみでは、これらの達成は困難なため、市民が「生物多様性」についての理解を深め、生物多様性に配慮したくらしをするとともに、みんなで協力して生物多様性を高める取り組みを進めていくことが必要です。



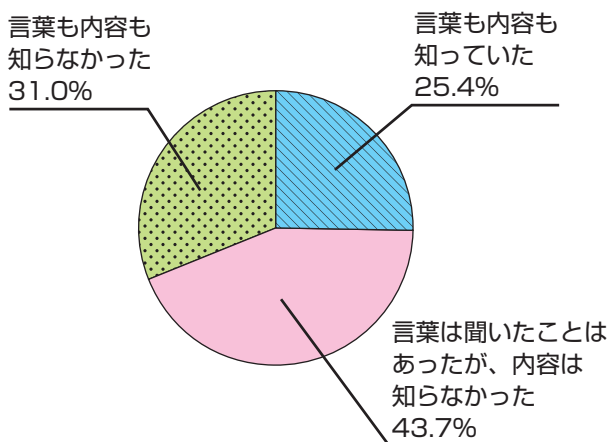
そのほか、生物多様性に関する市民アンケート（2012年実施）の結果では、「生物多様性」という言葉を聞いたことがある人の割合は69.1%であるものの、言葉の内容まで知っている人の割合は25.4%と、言葉は知っていても内容の浸透度は低いことがうかがわれます。

また、生物多様性の変化が生態系サービスの程度に影響することを常に認識している人の割合は15.3%であり、生物多様性の恩恵を受けて生活していることを普段から認識している人は少ないことが分かります。ところが「生物多様性の保全を推進するような活動に参加したことがありますか」という問いに対しては、「参加したことがあります、今後も参加したい」と回答した人の割合が16.9%、「参加したことはないが、今後参加してみたい」と回答した人の割合が58.4%であり、合わせると「参加したい」と思っている人の割合は70%を超え、参加した経験がある方の割合は高くはありませんが、参加したいという意欲をもつ人は多く、生物多様性を保全する活動に意義を感じている人が多いことがうかがえます。

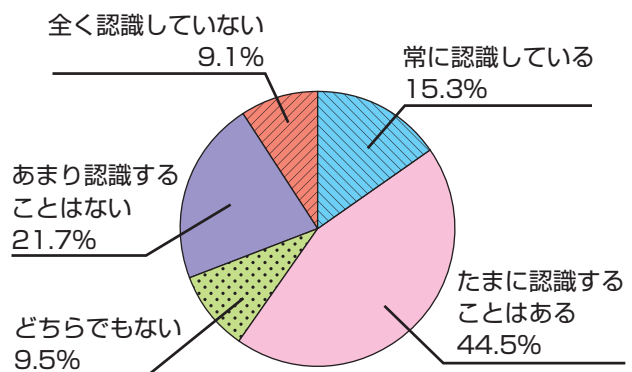
そこで、これらの現状と課題を鑑みて、本戦略の基本理念と長期目標(将来像)を掲げるとともに、基本方針(戦略)に基づいた施策を実施していきます。

### 【市民アンケート結果（抜粋）】

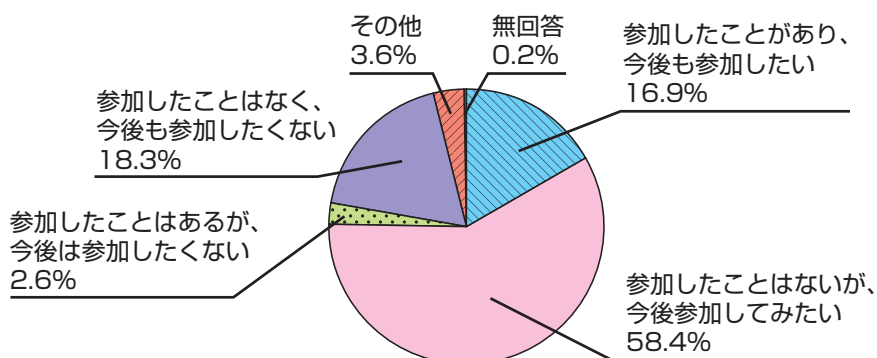
問：「生物多様性」という言葉を知っていましたか？



問：「生物多様性」の変化が「生態系サービス」の程度に影響することを認識していましたか？



問：生物多様性の保全を推進するような活動に参加したことがありますか？



## 2. 基本理念と長期目標

私たちは、自然環境や生き物から多くの恵みを受けて、生命を育み、文化を築き、豊かで便利な生活を行ってきました。一方で、開発による生態系の破壊、生活の変化に伴う里地里山の変化、資源やエネルギーの大量消費による地球環境への負荷の増大等を引き起こすなど、人間活動の影響により、現在、生物多様性は危機に瀕しています。そこ

で、あらゆる主体が取り組むべき課題を共有し、生物多様性に配慮した多様な活動を行うことにより、生物多様性を保全し、持続可能な社会を形成することが必要です。

以上のことから、本市が掲げる基本理念と長期目標（将来像）を次のように設定します。

### ◎基本理念

#### 「自然と共生するまちづくりをめざして」

- 私たちの生活や文化が、生物多様性の恵みからもたらされていることを多くの市民に理解してもらいながら、その保全と持続可能な利用に取り組みます。
- 堺の在来生物に配慮しながら、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組みます。
- 市民、事業者、NPO、行政などさまざまな主体が協働しながら、生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組みます。

### ◎長期目標（将来像）

「生物多様性への市民の理解が進み、生物多様性に配慮した行動を一人ひとりが行うことで、森・里・川・海のつながりが確保された豊かな自然と共生するまち・堺」

#### 【未来の堺 イメージ図】



### 3. 目標年次及び数値指標など

目標年次は2022年度とし、計画を推進します。ただし、「生物多様性国家戦略2012-2020」の長期目標(2050年)を考慮し、より長期を展望します。また、必要に応じて見直しを行います。

生物多様性・堺戦略の計画期間における目標は次のとおりです。

#### ○目標(10年後:2022年度)

##### 〈生態系の保全〉

- ・堺市レッドリスト掲載種数を増やさない(絶滅危惧種を増やさない)。

2007年度 **574種** ⇒ 2022年度 **574種**

##### 〈市民への普及〉

- ・「生物多様性」という言葉を知っている人(市民)の割合(認知度)\*

2012年度 **69.1%** ⇒ 2022年度 **90%**

- ・「生物多様性」の言葉も意味も知っている人の割合\*

2012年度 **25.4%** ⇒ 2022年度 **50%**

- ・「生物多様性・堺戦略」を知っている人の割合\*

2012年度 **0%**(策定前) ⇒ 2022年度 **50%**

- ・「外来生物」が与える影響の問題を知っている人の割合\*

2012年度 **—**(未調査) ⇒ 2022年度 **50%**

- ・「生物多様性の恩恵」を受けていることを知っている人の割合\*

2012年度 **15.3%** ⇒ 2022年度 **50%**

##### 〈活動促進〉

- ・生物多様性の保全を推進する活動への参加割合\*

2012年度 **19.5%** ⇒ 2022年度 **40%**

※いずれも18歳以上の割合